

趣 旨

今日の教育においては、学力の低下、学ぶ意欲の減少、基本的な生活習慣の未形成に見られる家庭の教育力の低下、LD、ADHD等の特別な支援が必要な子どもの増加、職業観や勤労観の希薄化等のさまざまな課題が明らかになっている。また、国民の多様な要請という点からは、ノーマライゼーションの理念の浸透により一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進が重要な課題となっている。

さらに、改正された学校教育法では、文部科学大臣の定めるところにより、自ら学校評価を行い、その達成状況を検証して学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努め、保護者、地域との連携・協力を推進するため情報を積極的に提供するなど、真に国民の期待に応えるべく、評価を重視した学校教育の在り方が明示された。

このため、校長には、自らの教育理念や子どもの実態に基づき、これからの変化の激しい社会の中で、国民の多様な要請に応え、どのような人間を育てるのかを明確に示し、創意工夫ある教育課程の編成や教育活動を推進し、学校評価を生かした学校運営が求められている。

そこで、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進を図るとともに、保護者や地域住民と連携して、子どもの成長を生涯学習の視点に立って支援していくことが大切である。また、学校運営状況について自己評価の結果を積極的に公表するとともに、学校評価委員会等の外部からの評価を的確に受け入れながら、学校運営の改善に努めることが大切になってくる。

このような視点から、国民の多様な要望に対し、学校として説明責任を果たす信頼される学校づくりの在り方を明らかにする。

研究の視点

1 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

特別な支援を必要とする子どもに対して、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うため、特別な配慮のもとに適切な教育を行う必要がある。そのため、学校では全教職員が正しい理解と認識を深め、適切に特別支援教育が推進できる体制の整備を図ることが重要である。

そこで、特別支援教育コーディネーターの養成、対象となる子どもの「個別の教育支援計画」の作成、保護者や地域との連携、また、専門的な見地からの特別支援学校との交流等を含めた総合的な支援体制の構築が重要になってくる。これらの課題にかかわって、特別支援教育を推進し、信頼される学校づくりに果たす校長の役割や在り方を究明する。

2 学校評価を生かした学校づくりの推進

保護者や地域の要請に応え、信頼される学校を創っていくためには、学校評価システムの確立を図り、評価結果を含め、学校の情報を積極的に保護者や地域住民へ提供することが重要である。

そのため、学校運営について、評価指標を設定し、達成状況を適切に評価して取組みの妥当性を検証することによる、組織的・継続的な改善が望まれる。また、自己評価結果については、外部評価委員会などの学校関係者による評価を得て、学校運営の改善に生かす必要がある。そこで、多様な要請に応え学校運営の改善を図る評価の在り方と校長の果たすべき役割について究明する。